関東教区「日本基督教団罪責告白・リタニー」

司式者：神よ、わたしたちは日本基督教団が成立とその歩みの中で犯し続けてきた罪責を告白いたします。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：わたしたちの教団は1941年6月24日、30余派の福音主義教会の合同によって成立しました。教会合同は日本の教会の早くからの願いでした。しかしこの合同は当時の戦時下の宗教統制の国策に屈したものでした。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：その中でわたしたちの教団は、唯一の神、唯一の主キリストへの信仰を告白しつつ、天皇を神とし、天皇を中心とする国家に奉仕する教会となりました。主の民であることよりも天皇の臣民であることを第一とした「日本的キリスト教」の過ちに陥りました。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：わたしたちは礼拝において神を賛美しつつ、「君が代斉唱」、「宮城遥拝」などの「国民儀礼」を行いました。戦争の勝利を祈り、「大東亜共栄圏の建設」を神の国の実現としました。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：わたしたちは天に国籍を持つ「神の民」であるにもかかわらず、朝鮮半島や中国、台湾をはじめとするアジアの隣人と教会に、そして在日の隣人と教会に、天皇を礼拝することを強要し、アジア侵略の戦争に加担・協力しました。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：わたしたちは同じキリストの体につながっていながら、旧6部・9部の教会を支えず、見捨て、教師籍を剥奪し、国家による教会解散を黙認しました。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：わたしたちは敗戦後、神の前に罪を悔い改め、再出発をすべきでした。しかし同じ体質を保持し、九州教区沖縄支教区であった沖縄の教会を抹消しました。1969年2月25日沖縄キリスト教団との合同が実現しましたが、沖縄の人々と教会が受けた戦禍と、戦後の苦しみを、自らのものとして受けとめませんでした。

会　衆：主よ、憐れんでください。

司式者：かつて1967年3月26日復活主日に、鈴木正久教団議長名で出された「第二次世界大戦下における日本基督教団の責任についての告白」はアジアの諸教会への謝罪表明として大きな意味がありました。しかしわたしたち教団の罪責は戦争責任だけでなく、教会のあり方全般に関わるものであり、何よりも神の前で懺悔告白しなければなりません。

会　衆：わたしたちは神の前に教団の罪責を告白し、主の赦しを乞い求めると共に明日に向かっての決意を表明いたします。主よ、憐れんでください。

司式者：今日、日本を再び戦争のできる国にしようとする国家主義の流れが強くなっています。

会　衆：わたしたちは主の前に日本基督教団の罪責を告白することで、主にあってひとつになり、明日に向かっての使命と責任を果たし、共にキリストにある和解と平和の福音を宣べ伝える教会の使命に仕えることができるように、主の助けと導きを祈ります。

一　同：主よ、憐れんで下さい。アーメン。